

万博公園春の渡り鳥調査結果 (06年度)

(調査期間 06年4月15日～5月5日)

製作：吹田野鳥の会

独立行政法人日本万国博覧会記念機構

①はじめに

1)経緯

万博公園を通過する春の渡り鳥が最も多い時期は4月下旬である。日本野鳥の会大阪支部が万博公園定例探鳥会を開催し21年になるが、開催日が毎月第2土曜日で渡りのピークを外れている(4月は早すぎ、5月は遅すぎる)ことから、渡りの全体像がつかめていなかった。しかも大阪城公園などに比べると渡り鳥が少ないと思われていたことから、渡り鳥の多い時期(4月中旬～5月初旬)の調査を吹田野鳥の会として行うこととし、03年からスタートした。

2)調査する春の渡り鳥

- ①ヒタキの仲間(ツグミ科・ウグイス科・ヒタキ科の鳥)
- ②ハタオリドリ科ニューナイスズメなど山野の鳥
- ③コチドリなど水辺の鳥、他

3)調査目的

- ①これら渡り鳥が好む植生環境がわかれば、今後渡り鳥が利用する環境を創生するための万博公園植生管理の基礎資料となる
- ②大阪城公園などに比し万博公園で観察できる渡り鳥が少ないと言われている原因を知りたい

② 06年ヒタキの仲間

1. 06年調査で、ヒタキの仲間の渡りはこれまでの3年間で大きく上回る増加となった。特にマミチャジナイが調査期間全ての日に確認でき総数 282羽(平均 13羽/日)となったこと、また昨年まで数羽にとどまっていたアカハラも 76羽カウントしたことが大きい。更にノビタキ・オオヨシキリが確認できたなどから、過去3年間に比し種数・個体数とも大幅増となった。

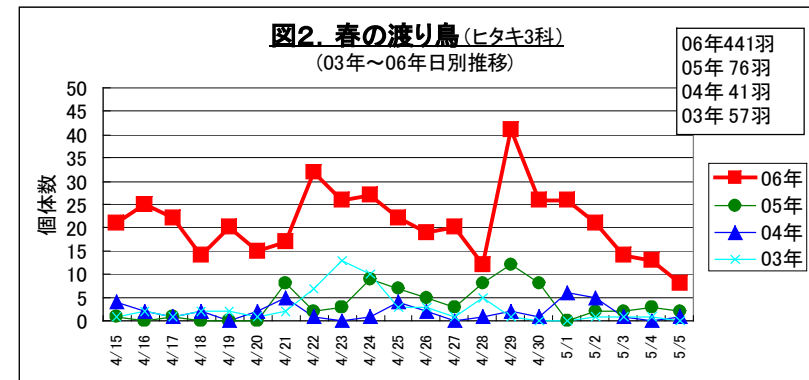
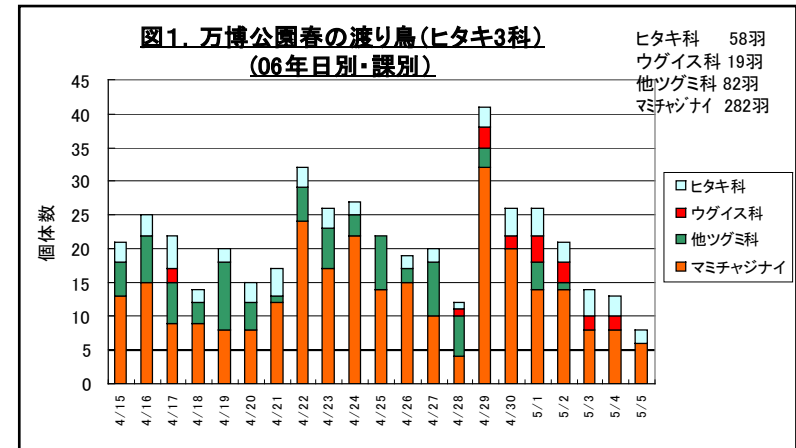
ヒタキの仲間種数・個体数 (除マミチャジナイ・アカハラ)

06年	11種	441羽	(9種	83羽)
05年	6種	76羽	(5種	69羽)
04年	10種	41羽	(9種	36羽)
03年	10種	57羽	(9種	54羽)

2. 日別推移でもマミチャジナイ効果が大きく、最大 41羽の日(4/29)があるなど、多数の鳥を確認できた。

3. マミチャジナイ・アカハラを除く個体数でも 83羽と従来よりも多くなったが、これはツグミ科以外に、オオルリ・キビタキのヒタキ科の鳥が過去最高の個体数(05年 33→58羽)となったことによる。

一方で昨年最も多かったセンダイムシクイなどウグイス科の鳥は半減(36→19羽)した。



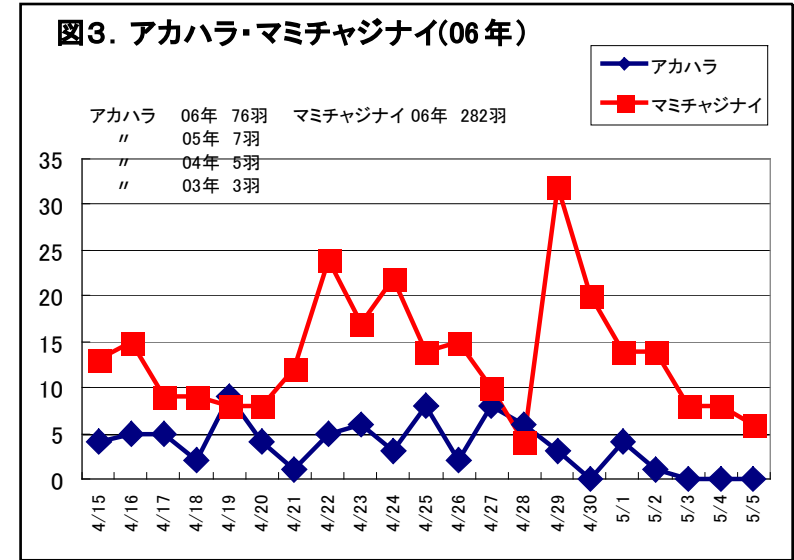
③ヒタキの仲間の種別個体数

1. マミチャジナイ・アカハラ(図3)

06年はマミチャジナイ年、昨年まで全く観察できなかったマミチャジナイが、全ての調査日に観察できたことは特記できる。またアカハラもマミチャジナイと一緒にあるいは別の場所で良く観察できた。

今年のマミチャジナイは万博公園だけでなく、大阪近郊の平野部～山地の林でも多数観察される特異年となった。マミチャジナイがこれほど多かったのは史上初だろうと、50年に亘って野鳥観察をしている人からお聞きした。

アカハラもこの3年間の結果に比し 10～20 倍増、毎日のように確認できた。マミチャジナイ・アカハラの渡りのルートが変化したのか、それとも今年1年のみの現象か、来年の両種の動向がどう出るか楽しみである。



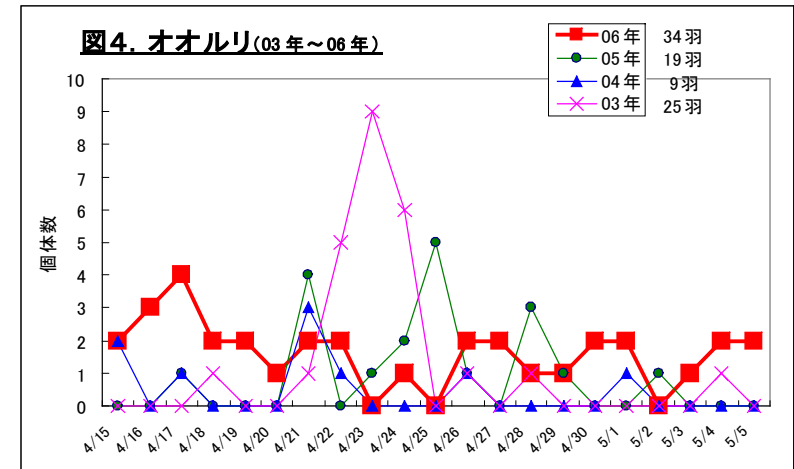
2. オオルリ(図4)

昨年までの3年間、ヒタキの仲間で最も春の渡り鳥の数が多かったオオルリ、今年マミチャジナイ・アカハラ大幅増の影に隠れたが、それでもこの4年間で最大の34羽(05年 19羽)確認した。03年、05年は個体数の多い日に集中する傾向があったが、今年は調査期間を通じてほぼ毎日確認できた。

3. キビタキとウグイス科

オオルリに続く個体数多い鳥はキビタキの20羽(05年 13羽)であった。尚、キビタキについては今年6月定例探鳥会においてアジサイの森でさえずりを聞いたので、園内で繁殖した可能性がある(但し、さえずり以外の証拠なし)。

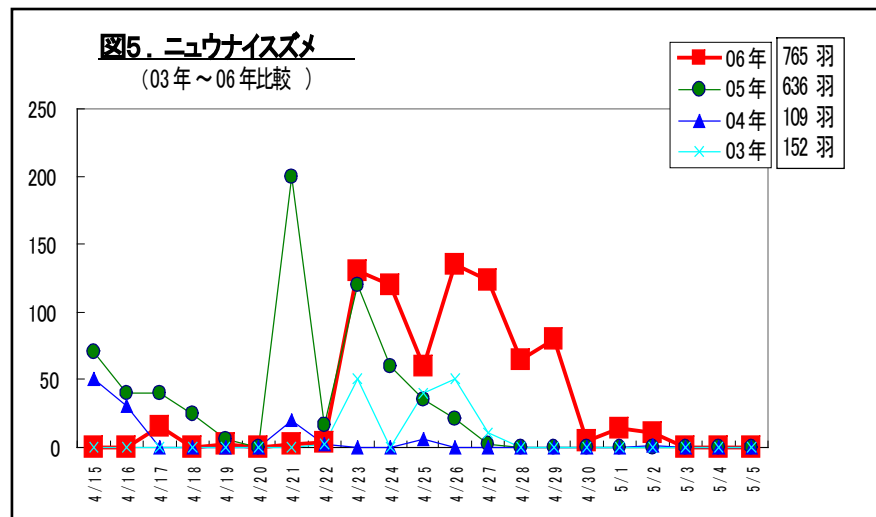
05年に最も多かったセンダイムシクイは14羽(05年 25羽)に大幅減となった。



④ヒタキの仲間以外の鳥

1. ハタオリドリ科 ニュウナイスズメ(図5)

春の渡り鳥調査を開始した 03 年、スズメの仲間のニュウナイスズメが群で万博公園を通過していることがわかった。03 年・04 年は 50 羽程の群を確認した程度であったが、05 年は 200 羽を超えた日があるなど大幅増となり、今年もほぼその状況が再現され、4/23 からの1週間は 100~150 羽で推移した。



2. レンジャク科 ヒレンジャク

レンジャクの仲間は年によって変動が大きく観察できない年もあるが、今年調査期間に 5 回、トータル 90 羽(最大 50 羽)観察した。日本庭園東側のクヌギ林がお気に入り場所であった。

3. コチドリ・ムナグロ・ササゴイ・アリスイ

毎年水すましの池の上流側で観察できるコチドリ(チドリ科)は今年も 4 回 6 羽観察した。万博初記録のムナグロ(チドリ科)が東の広場で 1 回 2 羽、ササゴイ(サギ科)を松の池などを確認した。

また、万博初記録となるアリスイ(キツツキ科)は、ドングリ池西側のコナラ林で確認した。

⑤ 調査期間のトータル観察鳥

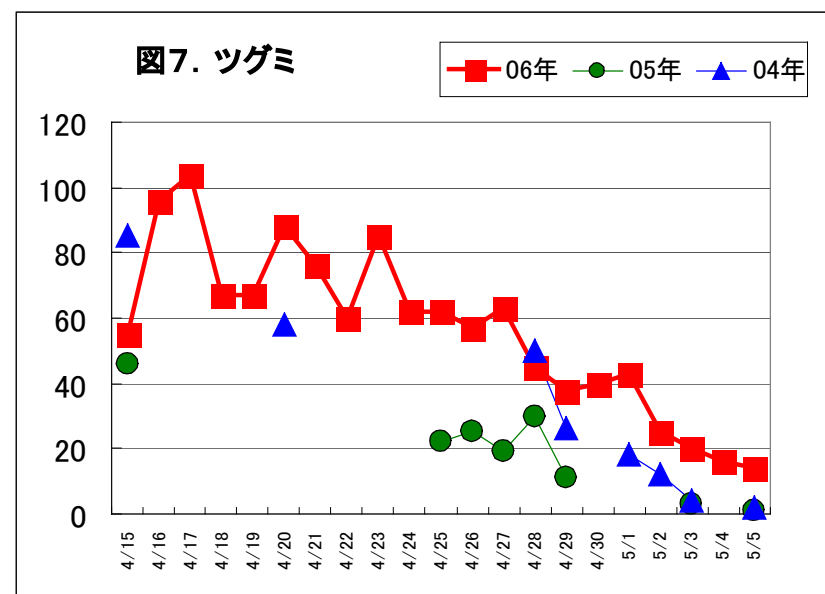
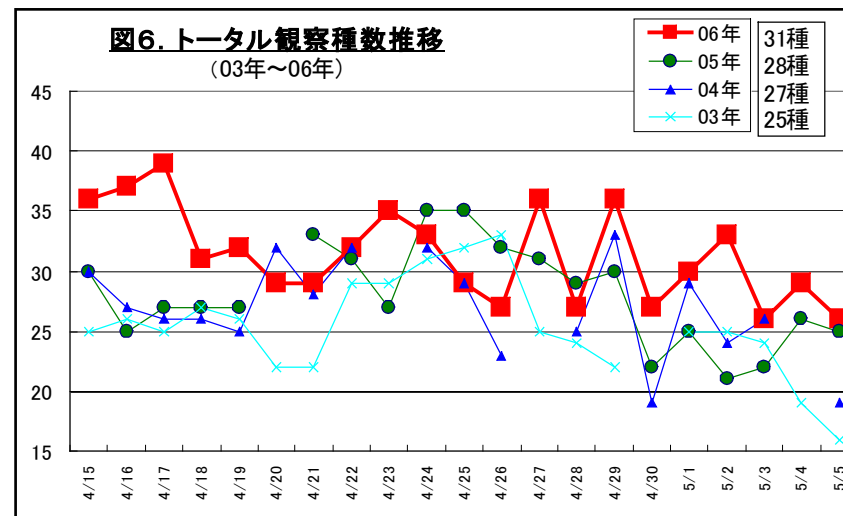
1. トータル観察種数

調査期間の観察種は最大 39 種(4/17)、最小 26 種(5/3,5/5)であった。今年は好天に恵まれ、雨による調査中止がなく鳥も多かったため、平均もこの 4 年間での最大 31 種となった。春の渡り鳥だけでなく、ツグミ・シロハラなど冬鳥の渡去が遅かったことも影響していると思われる。

2. 冬鳥のツグミについて

冬鳥ツグミの渡去状況について把握するため、春の渡り鳥調査に合わせて、園内にいるツグミの総数をカウントした。05 年晩秋～06 年春に園内で定住したツグミが少なかったことから、調査期間中も多くないと予想していたが、4/17に100羽確認するなど、思いの外多かった。冬のツグミが今年より多かった昨年・一昨年は単発的にしかカウントしていないが、それに比べると、むしろ今年の春はツグミが多かったのではないと思われる。

尚、今年は 5 月に入ってもツグミやその他の冬鳥が割合多く残っていたのは、4 月の気温が昨年より低かったことから北帰行を遅らせたのではないかと推定している。



⑥渡りの小鳥を確認した場所（別図1～6）

別図1 ヒタキ科(オオルリ・キビタキ・コサメビタキ)

オオルリは日本庭園、キビタキは自然文化園南側に多かった。両種とも芽吹き始めた落葉樹林を好む鳥と思っているが、オオルリが日本庭園北側に多かったなどでその傾向を確認したものの、植生との関係を云々できるまでに至らなかった。

別図2 ウグイス科(センダイムシクイ・エゾムシクイ・メボソムシクイ・オオヨシキリ)

今年はウグイス科の鳥が少なく生息環境を説明できる状況にならなかった。尚、1羽であるがオオヨシキリを砂の広場で確認したが、ツグミ科のノビタキと同様、ガマに休んでいたものである。

別図3 ツグミ科(マミチャジナイ)、 別図4 ツグミ科(アカハラ)

マミチャジナイは今年を象徴する鳥、数が多く園内至る所に分布していた。予想以上に植生との関係がはっきりしており、自然学習の森～花の丘周辺、紅葉溪～ビオトープの池周辺、世界の森、日本庭園東側など、調査当初からオオルリ・キビタキの好む林と思っていたクヌギ・コナラを中心とする落葉樹林にいることが多かった。

またアカハラもマミチャジナイと一緒にいることが多かったことから、同一環境を好むと思われる。

別図5 ハタオリドリ科(ニューナイスズメ)

100羽前後と推定される群に4回、50羽前後と思われる群に3回と、マミチャジナイ以上に生息場所が限定されていた。日本庭園東側及び北側のクヌギ・コナラ林に多く、一部は自然文化園にもいたが、クヌギ・コナラ林かソメイヨシノ並木であった。

別図6 その他(ノビタキ・クロツグミ・ササゴイ・アリスイ・ムナグロ)

ノビタキは砂の広場周辺にいた。ムナグロは東の広場、ササゴイは松の池にいたが、単発的である。

尚、図示してないが、日本庭園東側のクヌギ・コナラ林でレンジャクの群を5回(トータル90羽)確認している。

⑦まとめ

- 1)06 年度、万博公園を通過しているヒタキの仲間の春の渡りは、今まで全く観察できなかったマミチャジナイが 282 羽(平均 13 羽/日)、アカハラは昨年7羽から 10 倍増の 76 羽など、ツグミ科の鳥が数多く長く滞在したことから、昨年までと大きく異なる結果となった。オオルリ・キビタキもこの 4 年間の最大数となるなど、ウグイス科を除いて春の渡り鳥は多かった。
- 2)オオルリ・キビタキが落葉樹林を利用している筈としてきて昨年まで答は出なかったが、今年はマミチャジナイ・アカハラ、そしてニューナイスズメ・ヒレンジャクなどにより、春の渡り鳥への植生影響、落葉樹林の効用が明らかとなった。中でも日本庭園東側・北側に広がる芽吹き直後のクヌギ・コナラ林は連日 100 羽以上の渡り鳥が集まる場として利用されていた。
- 3)クヌギ・コナラ林を渡り鳥の休憩地としてずっと守っていくことが、オオルリ・キビタキ・センダイムシクイなども集まる場所になると思われる。また、梅林北側～どんぐり池にかけての疎生林(クヌギ・コナラ林)は林床が奇麗に掃除されているが、落ち葉が蓄積するようにすれば、小動物の隠れ家となるので冬鳥のツグミ・シロハラの餌場となり、越冬数が増えると思われる。
- 4)メール情報によると大阪城公園は、今年もヒタキの仲間が数多く観察されバードウォッチャーの人気を集めた。大阪城公園が万博公園に比し春の渡り鳥の種数・個体数が共に多いという状況を、今年も覆すことは出来なかった。大阪城公園に春の渡り鳥が多くバラエティに富む一因として、「植生影響のみでなく、海と山との相対的距離が関係しているのではないか」という考え方がある。渡り鳥が瀬戸内海から陸地に近づいたとき、上空から大阪城公園の緑を見て休もうとして降りるが、海から離れた万博公園まで飛んで来た鳥は、万博に休まずすぐ近くに見える北摂連山まで飛んでから休むのではないかというものである。しかし、秋の渡り鳥も同じ傾向にあるので、更に大阪城公園以外を含めて検討する必要がある。
- 5)草原の鳥ノビタキ・水辺の鳥コチドリが好む場所は、砂の広場周辺と水すましの池上流側で、またムナグロが見られたのは雨上がりの東の広場(芝生)であった。今の万博公園に草原の鳥・水辺の鳥を呼ぶことは難しいが、砂の広場のガマは夏にはバンの巣作り場所となっており、残してほしい。

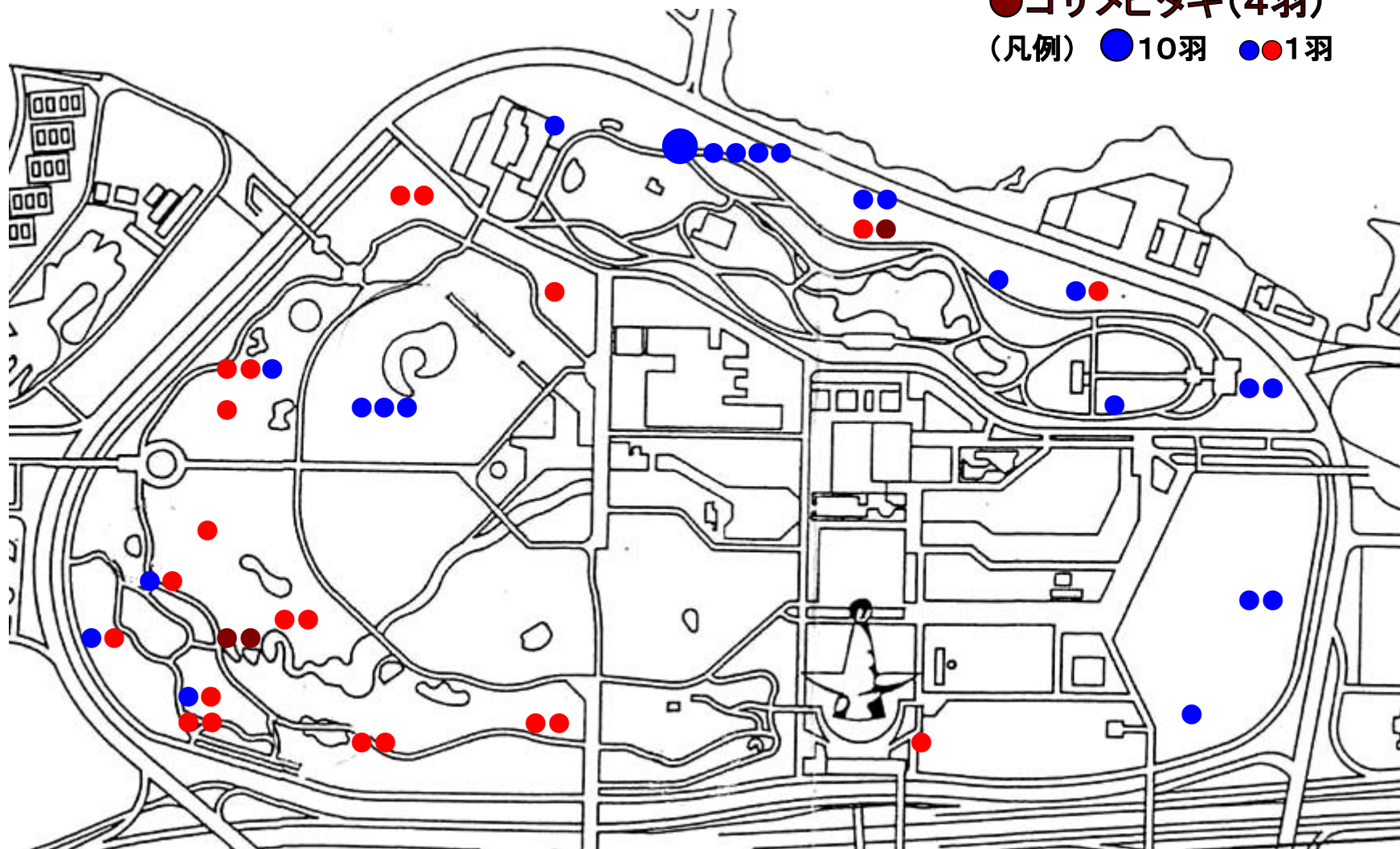
また20年前に多かったホオジロ科の鳥を呼び戻すための実験場所としては、万葉の里にススキの原の復活であろう。

以上

注記)本資料は吹田野鳥の会「万博公園の春の渡り鳥調査」結果をまとめたもので、06年度調査は延べ59名の協力を得て実施した。

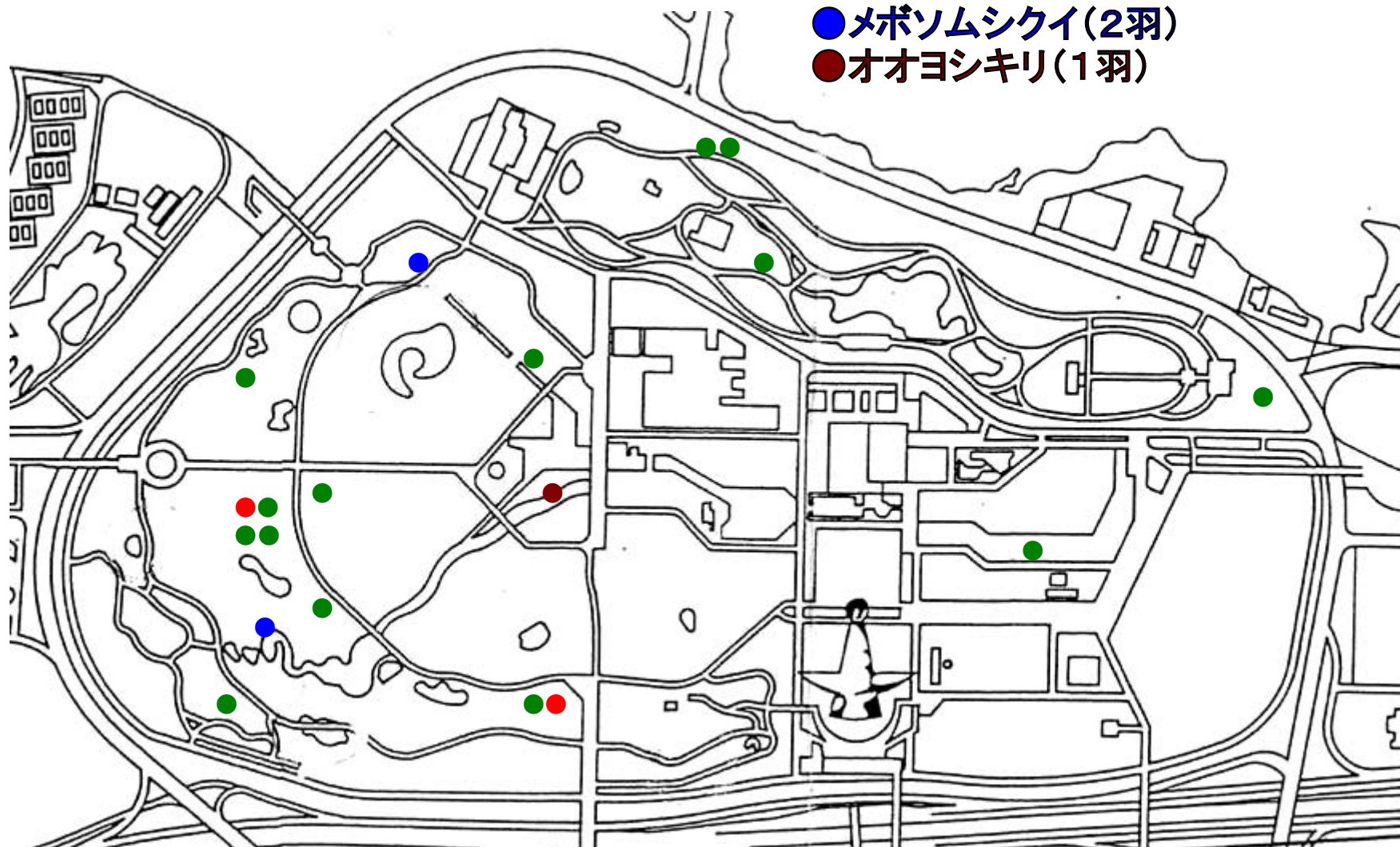
別図1 ヒタキ科

- オオルリ(34羽)
- キビタキ(20羽)
- コサメビタキ(4羽)
- (凡例) ● 10羽 ● 1羽

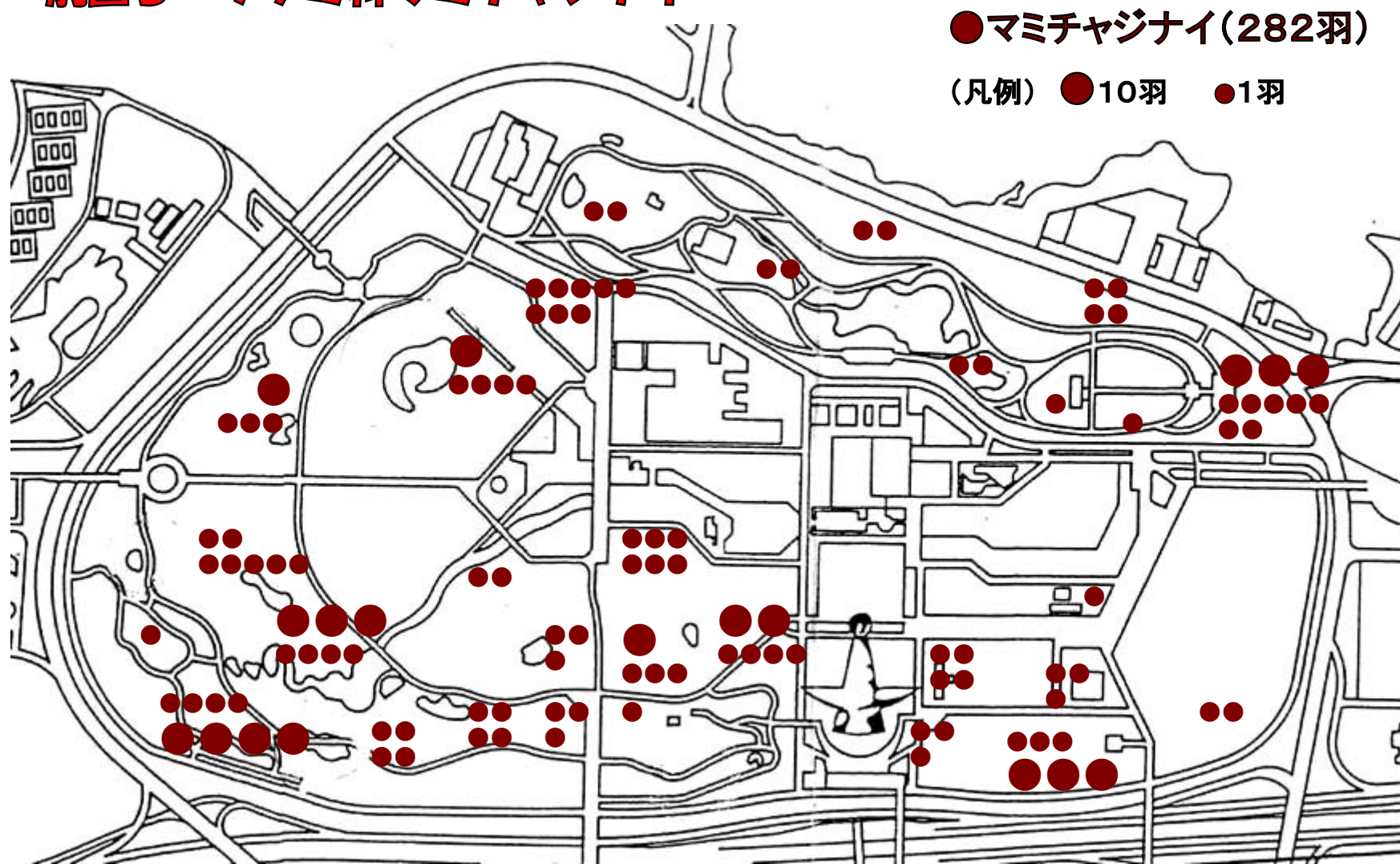


別図2 ウグイス科

- センダイムシクイ(14羽)
- エゾムシクイ(2羽)
- メボソムシクイ(2羽)
- オオヨシキリ(1羽)



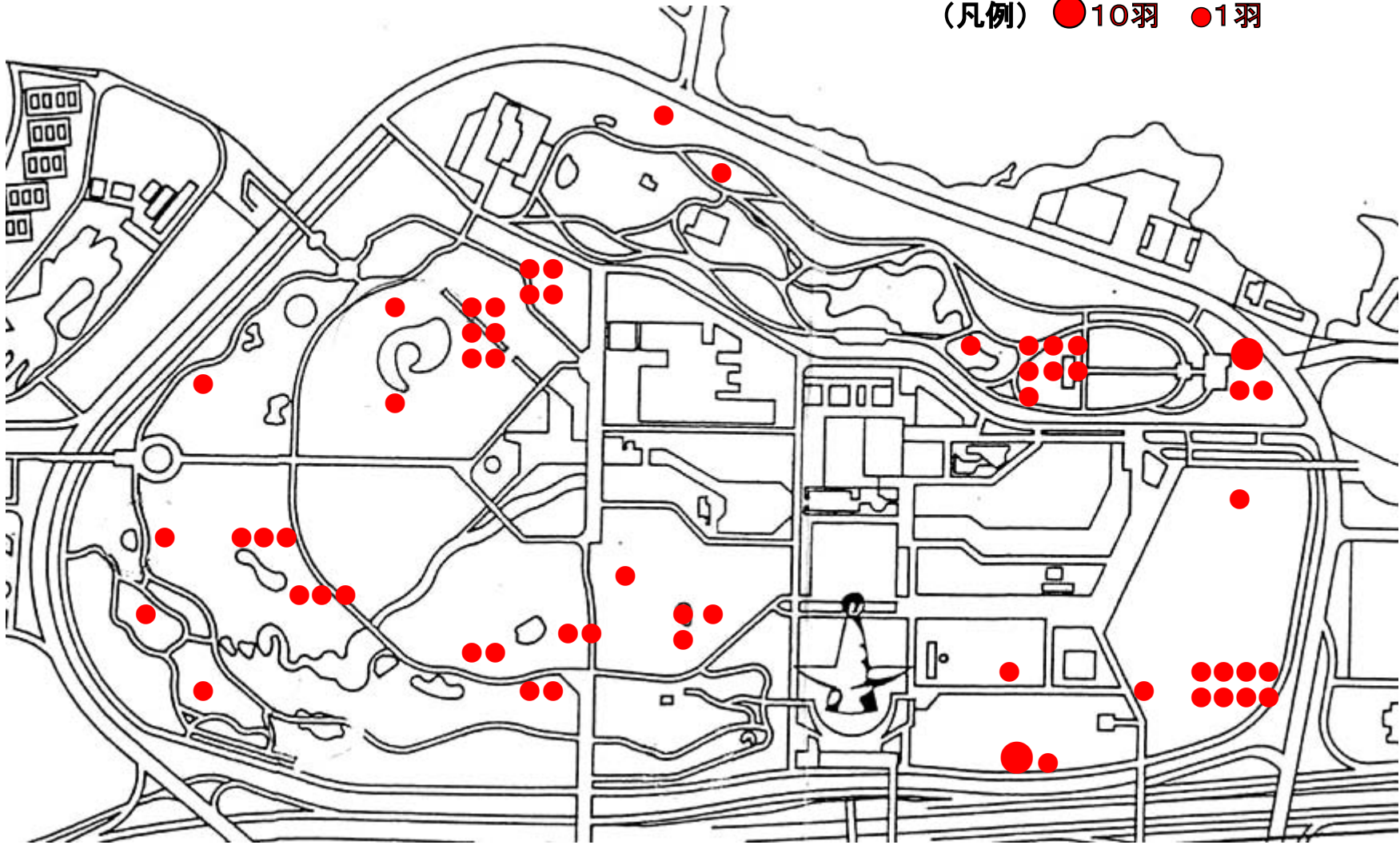
別図3 ツグミ科マミチャジナイ



別図4 ツグミ科アカハラ

●アカハラ(76羽)

(凡例) ●10羽 ●1羽

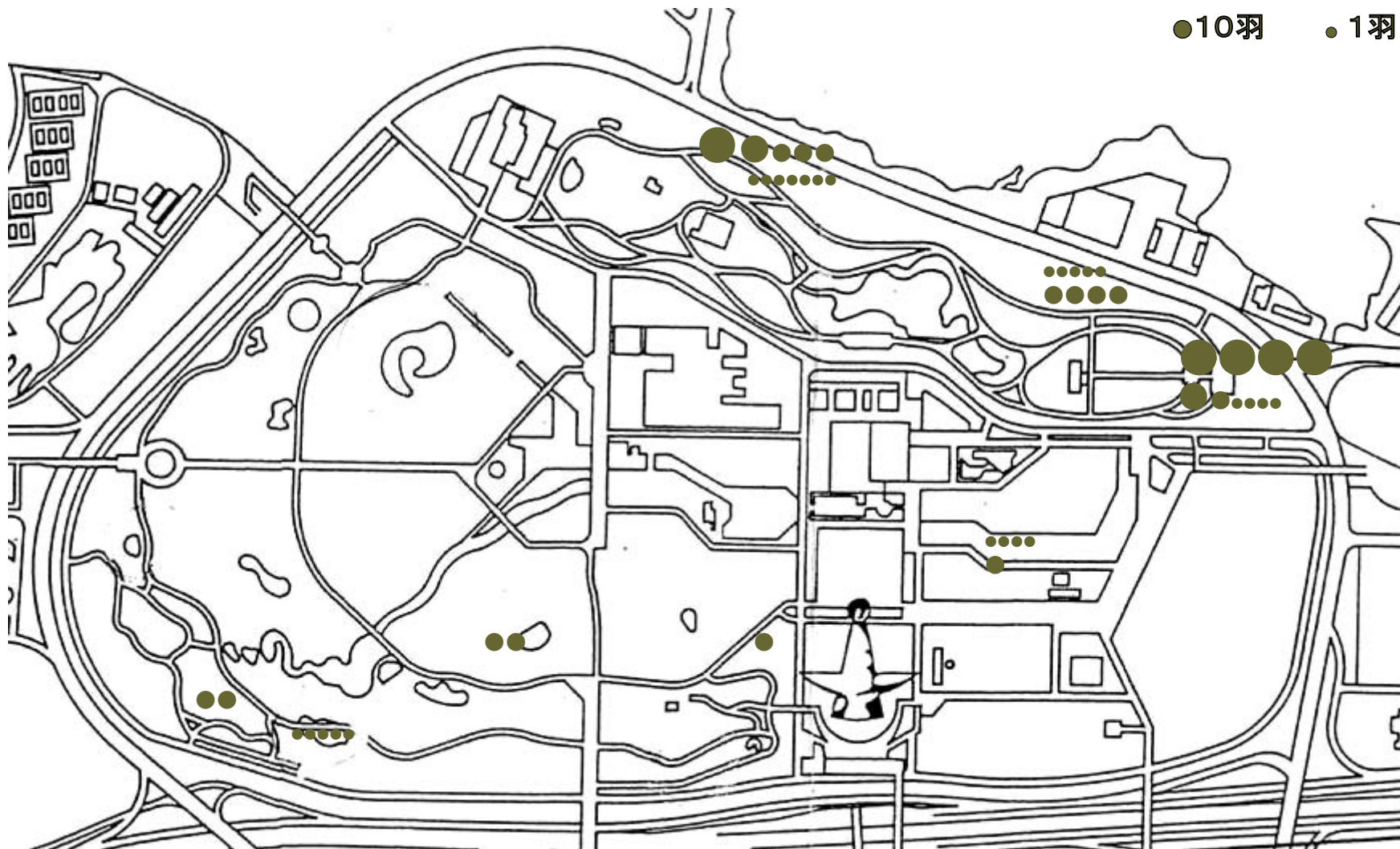


別図5 ハタオリドリ科ニューナイスズメ

●ニューナイスズメ(765羽)

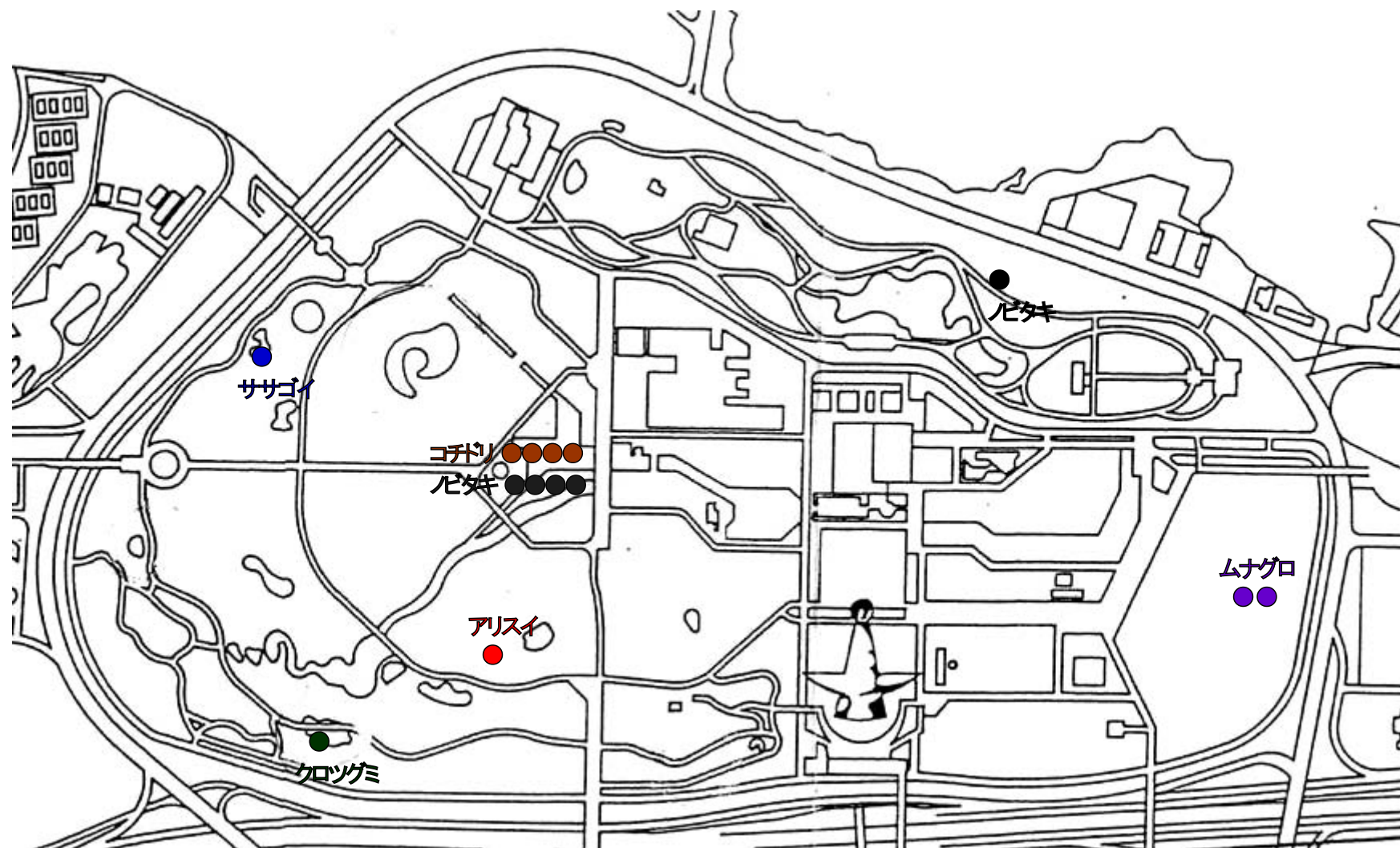
(凡例) ●100羽 ●50羽

●10羽 ●1羽



別図6 その他

(ノビタキ5羽・クロツグミ1羽・ササゴイ1羽・アリスイ1羽・ムナグロ2羽)



別表1 全観察鳥基礎データ①

(黄色地は春の渡り鳥)

	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	種数 計06 年	種数 計05 年	種数 計04 年	種数 計03 年	05年 比増 減	種名	
1	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	20	18	16	+1	カイツブリ	
2	ウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	19	13	18	+2	カワウ	
3	サギ	ダイサギ								○		8	○										3	2			+1	ダイサギ		
4	サギ	コサギ	○	○	○	○				○	○	○	○				○		○	○	○		15	3	12	6	+12	コサギ		
5	サギ	アオサギ	○	○	○	○		○			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	16	18	13	15	▲2	アオサギ		
6	サギ	ササゴイ																			1		1	1			+1	ササゴイ		
7	サギ	ゴイサギ													○								1				+1	ゴイサギ		
8	カモ	オシドリ	○	○																			2	1			+1	オシドリ		
9	カモ	マガモ	○	○	○	○	○	○	○			3	○	○	○	○	4	○	2	○	1	○	20	17	15	9	+3	マガモ		
10	カモ	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5	○	○	○	○	13	○	7	○	12	○	21	20	16	18	+1	カルガモ		
11	カモ	ヒドリガモ																							1			▲1	ヒドリガモ	
12	タカ	ミサゴ					1																1				+1	ミサゴ		
13	タカ	オオタカ		1			1																2	1	1	2	+1	オオタカ		
14	タカ	ツミ SP					1																1				+1	ツミSP		
15	タカ	ハイタカ																							2			▲2	ハイタカ	
16	ハヤブサ	ハヤブサ																							2			▲2	ハヤブサ	
17	クイナ	バン	○	○				○		○		○			○		○		○				8	13		11	▲5	バン		
18	チドリ	ケリ																				2	1				+1	ケリ		
19	チドリ	ムナグロ													2								1				+1	ムナグロ		
20	チドリ	コチドリ			2				2										1	1			4	12	5	3	▲8	コチドリ		
21	シギ	クサシギ																						1				▲1	クサシギ	
22	カモメ	カモメ SP																									1		カモメSP	
23	ハト	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	20	18	18	+1	キジバト		
24	ハト	アオバト	6	○	10		6				1						1						6	1	4	1	+5	アオバト		
25	アマツバメ	アマツバメ SP														3							1				+1	アマツバメ SP		
26	カワセミ	カワセミ	○	○	2	○				○		○		○		1					1	○	11	6	6	1	+5	カワセミ		
27	キツキ	アオゲラ																									2		アオゲラ	
28	キツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	18	16	19	+3	コゲラ		
29	キツキ	アリスイ			1																		1				+1	アリスイ		
30	ツバメ	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	20	15	15		ツバメ		
31	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	2	○	○		1	2	○	1			○		○					2	12	10	7	10	+2	ハクセキレイ		
32	セキレイ	セグロセキレイ		○	4	○	○	4	○	1	○	○	2		○	○	○	1	○	○	○	1	19	18	16	12	+1	セグロセキレイ		
33	セキレイ	ビンズイ					1				1				○		3						4	5	3	7	▲1	ビンズイ		
34	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	18	16	20	+3	ヒヨドリ		
35	モズ	モズ																							3		1		▲3	モズ
36	レンジャク	ヒレンジャク								15	50			10								10	5	5			+5	ヒレンジャク		
37	ツグミ	コマドリ																								1	2		コマドリ	
38	ツグミ	コルリ																								1			コルリ	
39	ツグミ	ルリビタキ	○	○	1						1	1											5	3		1	+2	ルリビタキ		
40	ツグミ	ノビタキ	1	2	1	1																	4					+4	ノビタキ	

別表 1 全観察鳥基礎データ②

	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	種数計 06年	種数計 05年	種数計 04年	種数計 03年	05年比増減	種名
41	ツグミ	トラツグミ																									1	トラツグミ	
42	ツグミ	クロツグミ					1																	1		2	2	+1	クロツグミ
43	ツグミ	アカハラ	4	5	5	2	9	4	1	5	6	3	8	2	8	6	3			4	1			17	6	4	3	+11	アカハラ
44	ツグミ	シロハラ	13	18	10	3	8	7	3	12	5	7	4	2	12	6	7	2	0	1	1	3	3	21	13	10	14	+8	シロハラ
45	ツグミ	マミチャジナイ	13	15	9	9	8	8	12	24	17	22	14	15	10	4	32	20	14	14	8	8	6	21				+21	マミチャジナイ
46	ツグミ	ツグミ	55	96	104	67	67	88	76	60	85	62	62	57	63	45	38	40	43	25	20	16	14	21	17	18	20	+4	ツグミ
47	ウグイス	ヤブサメ																									2	ヤブサメ	
48	ウグイス	ウグイス	0	0	1		0				0				0									6	7	17	11	▲1	ウグイス
49	ウグイス	オオヨシキリ														1								1			1	+1	オオヨシキリ
50	ウグイス	メボソムシクイ																1				1		2		1	2	+2	メボソムシクイ
51	ウグイス	エゾムシクイ															2							1	7	2	2	▲6	エゾムシクイ
52	ウグイス	センダイムシクイ			2												1	1	4	3	2	1		7	10	8	7	▲3	センダイムシクイ
53	ヒタキ	キビタキ	1		1			1	1	1	1	1				2	2	2	3	3	1		13	9	4	9	+4	キビタキ	
54	ヒタキ	オオルリ	2	3	4	2	2	1	2	2		1		2	2	1	1	2	2		1	2	2	18	9	6	8	+9	オオルリ
55	ヒタキ	コサメビタキ						1	1		2													3	1	1		+2	コサメビタキ
56	エナガ	エナガ	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0		0	0		0		16	14	12	13	+2	エナガ
57	シジュウカラ	ヤマガラ	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0		18	13	10	10	+5	ヤマガラ
58	シジュウカラ	シジュウカラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	20	+1	シジュウカラ
59	メジロ	メジロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	17	20	+1	メジロ
60	ホオジロ	ホオジロ																									2	ホオジロ	
61	ホオジロ	アオジ	0	0	0	0		0	2	0	0	3		2	0		0				0			13	15	14	17	▲2	アオジ
62	ホオジロ	クロジ																									2	2	クロジ
63	アトリ	アトリ													1									1	4	12	3	▲3	アトリ
64	アトリ	カワラヒワ	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	19	+1	カワラヒワ
65	アトリ	マヒワ																									7	マヒワ	
66	アトリ	イカル	0	0	0	2	0	0		0	0	0				0								14	17	18	13	▲3	イカル
67	アトリ	シメ	0	0	10	7	0	4	9	15	13		3	6	0	0	0	4	0	24				17	6	11	10	+11	シメ
68	ハタオリドリ	ニューナイスズメ			15		2		2	4	130	120	60	135	123	65	80	5	14	10				14	12	8	5	+2	ニューナイスズメ
69	ハタオリドリ	スズメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	19	+1	スズメ
70	ムクドリ	ムクドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	20	+1	ムクドリ
71	カラス	カケス																								5		▲5	カケス
71	カラス	ハシボソガラス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	20	+1	ハシボソガラス
72	カラス	ハシブトガラス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	18	20	+1	ハシブトガラス
計	06年		36	37	39	31	34	29	29	32	36	34	29	27	36	27	36	27	30	33	26	29	26	663	559	485	507	+104	06年
計	05年		30	25	27	27	27	中止	33	31	26	35	35	32	31	29	30	22	25	21	22	26	25	559				05年	
計	04年		30	27	26	26	25	32	28	32	中止	32	29	23	中止	25	33	19	29	24	26	中止	19	485				04年	
計	03年		25	26	25	27	26	22	22	29	29	31	32	33	25	24	22	0	25	25	24	19	16	507				03年	

観察種数	58	50	48	51	+8
観察日数	21	20	18	20	+1
平均観察種数/日	31.6	28.0	26.9	25.4	+3.6

別表2 春の渡り鳥基礎データ

	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	個体 数計 06年	個体 数計 05年	個体 数計 04年	個体 数計 03年	05年 比増 減	種名
1	ツグミ	コマドリ																										コマドリ	
2	ツグミ	コルリ																										コルリ	
3	ツグミ	ノビタキ	1	2	1	1																	5				+5	ノビタキ	
4	ツグミ	クロツグミ					1																1		2	2	+1	クロツグミ	
5	ツグミ	アカハラ	4	5	5	2	9	4	1	5	6	3	8	2	8	6	3		4	1			76	7	5	3	+69	アカハラ	
6	ツグミ	マミチャジナイ	13	15	9	9	8	8	12	24	17	22	14	15	10	4	32	20	14	14	8	8	6	282				+282	マミチャジナイ
7	ウグイス	ヤブサメ																									2	ヤブサメ	
8	ウグイス	オオヨシキリ														1											1	+1	オオヨシキリ
9	ウグイス	メボソムシクイ																1				1		2		1	2	+2	メボソムシクイ
10	ウグイス	エゾムシクイ															2						2	11	4	2	▲9	エゾムシクイ	
11	ウグイス	センダイムシクイ			2												1	1	4	3	2	1	14	25	13	7	▲11	センダイムシクイ	
12	ヒタキ	キビタキ	1		1			1	1	1	1	1					2	2	2	3	3	1	20	13	4	11	+7	キビタキ	
13	ヒタキ	オオルリ	2	3	4	2	2	1	2	2		1		2	2	1	1	2	2		1	2	2	34	19	9	25	+15	オオルリ
14	ヒタキ	コサメビタキ						1	1		2												4	1	1	0	+3	コサメビタキ	
	ツグミ科		18	22	15	12	18	12	13	29	23	25	22	17	18	10	35	20	18	15	8	8	6	364	7	9	7	+357	
	ウグイス科				2											1	3	2	4	3	2	2	19	36	18	14	▲17		
	ヒタキ科		3	3	5	2	2	3	4	3	3	2		2	2	1	3	4	4	3	4	3	2	58	33	14	36	+25	
	ヒタキ3科計		21	25	22	14	20	15	17	32	26	27	22	19	20	12	41	26	26	21	14	13	8	441	76	41	57	+365	
			ヒタキ3科観察種数																			11	6	10	10				
15	サギ	ササゴイ																		1			1					+1	ササゴイ
16	チドリ	ムナグロ													2								2					+2	ムナグロ
17	チドリ	コチドリ			2				2										1	1			6	26	5	5	▲20	コチドリ	
18	シギ	クサシギ																							1			▲1	クサシギ
19	アマツバメ	アマツバメSP														3							3					+3	アマツバメ SP
20	キツツキ	アリスイ			1																		1					+1	アリスイ
21	レンジャク	ヒレンジャク								15	50			10								10	5	90				+90	ヒレンジャク
22	ホオジロ	クロジ							2	4															3	2			クロジ
23	ハタオリドリ	ニューナイスズメ			15		2		2	4	130	120	60	135	123	65	80	5	14	10			765	383	109	152	+382	ニューナイスズメ	
	個体数合計		21	25	40	14	22	15	21	51	206	147	82	164	145	80	121	31	41	33	14	23	13	1309	486	159	216	+823	